



Fellow's Report

令和8年

《7月号》

＝ものづくりの仲間から＝

令和7年の労働災害発生状況

厚生労働省から、令和7年の「労働災害発生状況」が公表されました。

【全産業の労働災害発生状況（令和7年1月から12月）】

- ・死亡者数は700人（前年比46人・6.2%減）と過去最少となりました。
- ・休業4日以上の死傷者数は135,333人（前年比385人・0.3%減）となりました。

【令和7年労働災害発生状況の概要】※1

1. 死亡者数 ※2

- ・死亡者数は700人（前年比46人・6.2%減）と、過去最少となりました。
- ・業種別では、件数の多い順に、**建設業が214人（前年比18人・7.8%減）**、製造業が115人（同27人・19.0%減）、陸上貨物運送事業が80人（同28人・25.9%減）、商業が61人（同6人・10.9%増）となりました。
- ・事故の型別では、件数の多い順に、「**墜落・転落**」が**186人（前年比2人・1.1%減）**、「交通事故（道路）」が126人（同3人・2.4%増）、「はさまれ・巻き込まれ」が117人（同7人・6.4%増）となりました。

2. 休業4日以上の死傷者数 ※3

- ・死傷者数は135,333人（前年比385人・0.3%減）となりました。
- ・業種別では、件数の多い順に、製造業が26,371人（前年比305人・1.1%減）、商業が23,128人（同1,089人・4.9%増）、保健衛生業が19,291人（同424人・2.2%増）、陸上貨物運送事業が15,632人（同660人・4.1%減）となりました。
- ・事故の型別では、件数の多い順に「転倒」が37,195人（前年比817人・2.2%増）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」が22,166人（同52人・0.2%減）、**「墜落・転落」が20,864人（同165人・0.8%増）**となりました。
- ・**建設業は13,437人（前年比412人・3.0%減）**となりました。

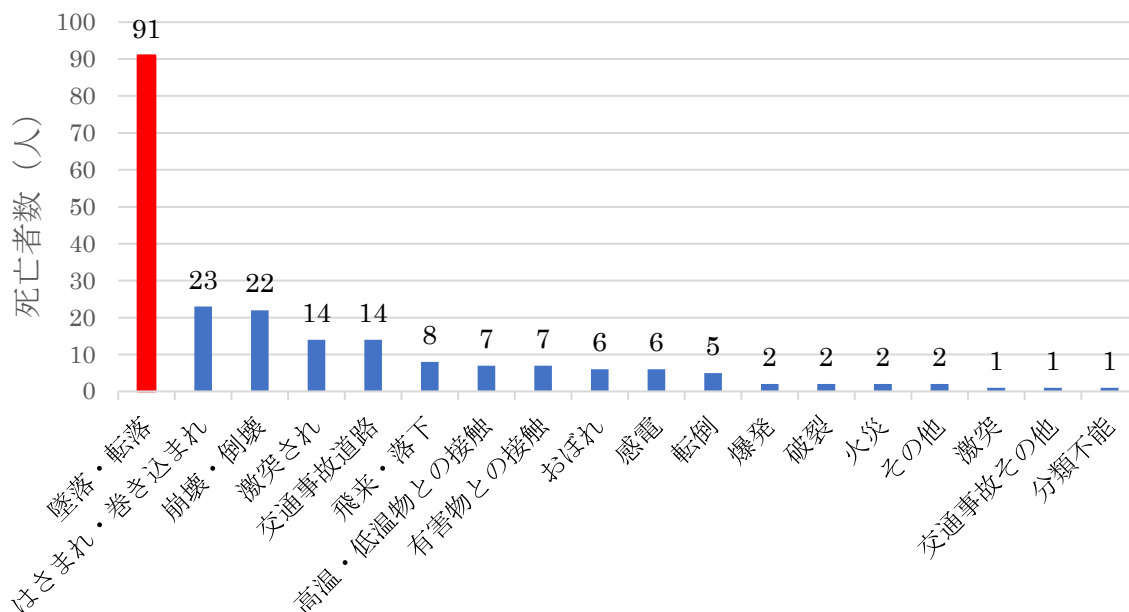
7月1日～7日は全国安全週間、また、7月は熱中症クールワークキャンペーン期間の重点取組月になりますので、ご注意ください。

- ※1 死亡者数及び死傷者数は、いずれも新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除いたもの。
- ※2 死亡災害報告をもとに、死亡者数を集計。
- ※3 事業者から提出される労働者死傷病報告をもとに、休業4日以上の死傷者数を集計。なお、これらの件数に通勤中に発生した災害の件数は含まない。

【建設業における事故の型別死亡災害発生状況（令和7年）】

死亡災害数 214 人について、事故の型別でみると、「墜落・転落」が最も多く **91 人**、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が **23 人**、「崩壊・倒壊」が **22 人**になります。

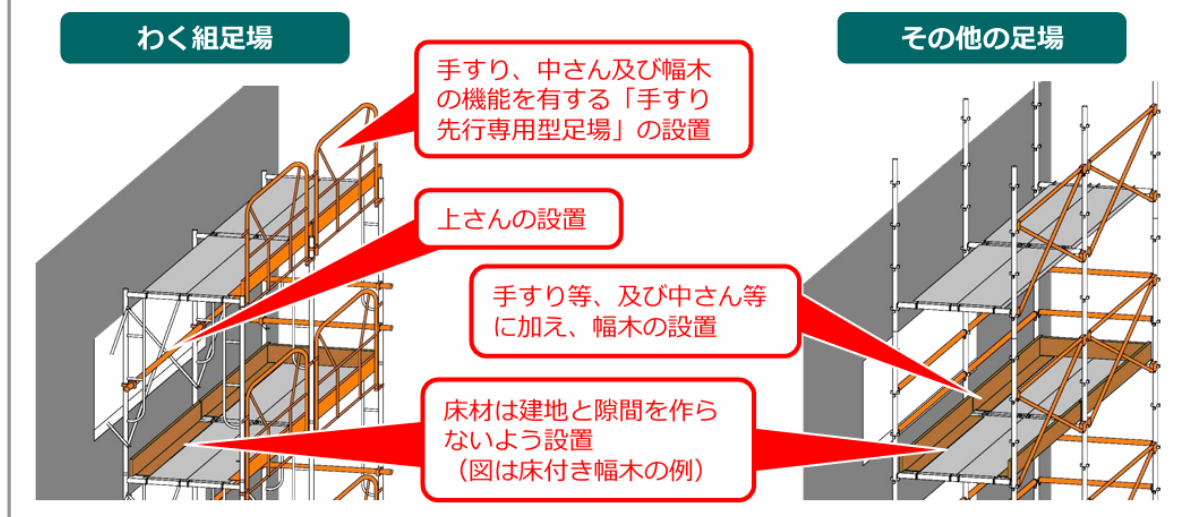
建設業における事故の型別死亡災害発生状況（令和7年）



保全公社の仕様は「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づきますので、労働安全衛生規則の確実な実施に併せて実施することが望ましい「より安全な措置」の遵守徹底を図ってください。

(1) 足場からの墜落防止措置の実施

足場からの墜落災害を防止するため、以下の「より安全な措置」を講じましょう。



出典根拠：厚生労働省ホームページ

ホーム>報道・広報>報道発表資料>2026年5月>令和7年の労働災害発生状況を公表
[令和7年の労働災害発生状況を公表](#)